宇都宮市のまちづくり情報紙

まちぴあ

身近なつながりに出会おう

No. 14
2015.7
夏号

UTSUNOMIYA MACHIPIA

TAKE FREE
無　料

特集「市民と行政」協働のまちづくり

これからのボランティア、主人公はご近所さんだ!!

ほっとねっと　認定NPO法人 青少年の自立を支える会

まちぴあ登録団体紹介　傾聴 こだまの会／特定非営利活動法人 栃木県防災士会

まちづくり言いたい放題　コミュニティ・インターン

16mm Film Projection Volunteer

1 宇都宮の映画おじさん上映作品1万本を突破

この日の会場は、横川西小学校子どもの家。映画が始まるまでざわざわ話し声が聞こえていたのに、やがて暗転してスクリーンにアニメ『三銃士』のタイトルが映し出されると、室内は水を打ったような静けさに。16ミリフィルムの奏でるカタカタカタという音と共に、懐かしい記憶が蘇ります。

映写機を回すのは、「宇都宮の映画おじさん」こと、西原伸行さん（72）。1年生から4年生までの児童約60人が、西原さんの選んだアニメ2作品を、目を輝かせるように鑑賞していました。

西原さんは、「うつのみや映写ボランティアの会」のメンバーでもあり、このような出前上映会を始めて12年になります。当初は自宅近くの横川東小学校1校だったものが、あれよあれよという間に口コミで広がり、今年4月の段階で通算4500回。1万作品を超えるまでになりました。上映場所も、地区センターや福祉施設など約30カ所に増え、いまではほぼ毎日のように回っています。

こう聞くとさぞかし映画好きの人なのだろうと思われますが、さにあらず。実は作品そのものというより、「機械いじりが好きだったんです」

西原さんは、ボランティアを始めた経緯をこっそり打ち明けてくれました。

2 せっかくの知識や技能をもっと活かせないものか

西原さん、もとは自動車部品メーカーに勤めていたサラリーマン。自分でも「仕事人間だった」と言うように、これといった趣味もなく、とにかく働き詰めの毎日。そろそろ定年後を意識し始めた50代の頃、地区の運動会で役員を務めることになりました。ところが、いざ動き始めてみるとご近所さんの顔と名前が一致せず、将来に危機感を覚えたそうです。

そんなとき、たまたま市の広報紙で映写技術者の養成講座を知ったことが、映写ボランティアを始めるきっかけとなりました。

この16ミリ映写技術者の養成講座は、栃木県教育委員会と宇都宮市の視聴覚ライブラリーが共催しています。受講して映写技術を習得すると、市が所蔵する16ミリフィルム（約1000本）や映写機など機材を無料で借りられることから、保育園や高齢者施設の職員さんに人気の講習会です。宇都宮市内だけでも、延べ5000人以上が受

「市民と行政」協働のまちづくり

これからのボランティア、主人公はご近所さんだ!!

近年よく耳にする協働のまちづくりという言葉「言うは易く、行うは難し」ですね。宇都宮での協働は、そろそろ芽生えの時期を卒業し、本格的な実践のステージとして、さらなる市民協働を推進中。そこで今回の特集では、協働という言葉が生まれる以前より、30年もの長きに渡り続いている協働の事例をご紹介。

映写は愉快だ 宇都宮 UTSUNOMIYA

うつのみや映写ボランティアの会

〒321-0968　栃木県宇都宮市中今泉 3-5-1（市立視聴覚ライブラリー内）
TEL:028-638-5704 FAX:028-610-5117

16ミリフィルム映写機技術者養成講習会を受講した市民が、映画の持つ教育的特性、娯楽性を認識して自主的に集まり、昭和61年に16ミリフィルムの活用、普及ならびに視聴覚教育の発展を目的に結成された市民団体

講しています。

うつのみや映写ボランティアの会は、この受講者が集まり「せっかくの技術をもっといろいろな場面で活かしたい」と、約30年前に発足した市民団体。会員は現在約70名で、視聴覚ライブラリー主催の映画会を手伝ったり、西原さんのように各地域で上映ボランティアを行ったりしています。

映画会を各地で開催するには当然多くの人手が必要です。また、これを個人で開催するとなるとフィルムや機材はあまりにも高価。このように、市が所蔵するフィルムを有効活用したい市民と、視聴覚教育の振興を図りたい行政が「まちづくりパートナー」として対等な立場で力を合わせ、良い関係性を築いているのです。

3 まずは身近なところから新しい協働のステージへ

「映画は娯楽としてはもちろん、教育的な側面からも社会的役割を担ってきました。市民のみなさんが主体的に映画会などを開催してくれているのは本当にありがたい」

そう話すのは、視聴覚ライブラリー副所長の阿久津元則さん（55）。

読者のみなさんにも、「人生に影響を与えた映画作品がある」という方は少なくないでしょう。それだけ作品そのものに教育的な影響力を持つのが映画だと思います。ですが阿久津さんはさらに一歩踏み込んで、映画会を自分たちで企画してみることを勧めています。

「幼い頃に野外で観た映画の記憶というのは、いつまでも色褪せない思い出です。これは一人部屋にこもって楽しむ映画とは、またひと味違ったものになるはず。映画会を親やおじいちゃん世代が企画して、地域の子どもたちに喜ばれる。その楽しかった思い出がまた次の世代へとつながって欲しいですね」

８００万人ともいわれる団塊世代のみなさんが、続々と地域社会へと戻っている現在。ビジネスで培った知識や経験、人脈などを生かしてリーダー的な役割を担ってくれるおかげで、地域コミュニティにおける絆の再生も少しずつ始まっています。

うつのみや映写ボランティアの会を取りまとめる小林充佳会長（75）は、「文化遺産として16ミリフィルムと上映技術を次世代に引き継ぎたい思いでやってきた。今年は30周年ということで、12月に記念映画会も予定しています」

その上で、ボランティアを継続する秘訣について、「まずは自分たちが楽しむこと。それと同時に活動のしやすさが大切です。幸い私たちの場合、良い仲間に恵まれたこと、行政と協働できたことが大きい」と、これまでを振り返ります。

ここでの活動のしやすさとは、「環境を整えること」と言い換えてもいいでしょう。もちろん協働がすべてというわけではなく、信頼関係がなければ、むしろ独自に実施したほうが望ましいこともあります。ただ今回の事例のように、まずはお互い必要な存在だと認め合うことから、自然に育まれる協働もあるのです。

「これって一緒にできるかも？」

そんなちょっとしたひらめきが、新たな協働の第一歩となるかもわかりません。ＮＰＯと地域、さらに多様な主体を巻き込みながらの社会貢献は、今後ますます加速していくことでしょう。

うつのみや映写ボランティアの会を取りまとめる小林充佳会長

横川西小学校子どもの家で定期的に映画会を開く「映画おじさん」こと西原さん

特別養護老人ホーム瑞寿苑にてボランティア

映画会のお知らせ

★ 名画鑑賞会

日時：7月12日（日）14:00～
作品：「ネイチャー」2013年（英）87分
会場：東市民活動センター

★ 野外アニメ映画会

日時：7月20日（月・祝）19:00～
作品：ディズニー映画を中心に数作品　80分
会場：東図書館中庭　※敷物ご持参ください

★ ほしぞら映画会

日時：7月25日（土）19:00～
作品名：「ドナルドダックとゆかいなペンギン」
他４作品　82分
会場：駅東公園広場　※敷物ご持参ください

★ 16ミリ映写機 技術者養成講座のご案内 ★

日時：8月29日（土）13:00～17:00　定員：20人
対象：市内在住、または通勤・通学している人
会場：東図書館2F集会室

■ お問い合わせ
宇都宮市立視聴覚ライブラリー
〒321-0968 栃木県宇都宮市中今泉 3-5-1
TEL.028-638-5704　FAX.028-610-5117

認定NPO法人 青少年の自立を支える会

「子どもの貧困」が社会的な課題としてあげられている昨今の日本において、ずっと以前から社会的課題として取り組んでいる団体があることを知っていますか？
今回は、長年にわたり子どもたちの自立を支える活動を行っている「青少年の自立を支える会」のみなさんにお話しを伺いしました。

「星の家のはじまり」

家庭崩壊や虐待などの理由により、家族と離れて生活しなければならない子どもたちは、児童福祉法によって保護され、児童養護施設や里親のもとで暮らすことになりますが、子どもたちが中学を卒業した後に進学しないなどの場合には、施設等から離れ、就職・自立を強いられます。

星の家での団欒の様子

「星の家」は、突然社会に投げ出されるような子どもたちの実態を目の当たりにした法人理事長の星俊彦さんが、自宅に退所した子どもたちを住まわせたことをきっかけに昭和61年からはじまり、困窮に直面した子どもたちを支えるために法人格を取得し、「自立援助ホーム・星の家」として平成9年に開所しました。

「広げたい支える担い手」

現在法人では、困窮に悩む家庭の小中学生を対象とした、子どもの居場所「月の家」を市内に設立し、放課後の食事や入浴といった生活援助も行っています。子どもたちを支えつつ、自立できる家庭環境の改善に資する新たな取り組みです。このように、子どもたちを支える支援が増える一方で、ますますボランティアを含めた支援の輪が広がる必要性が増しています。

これまで17回開催し、恒例となった「星の家まつり」も多くのボランティアの力を必要とする催しです。法人では、まつりで販売するバザー品の募集をはじめ、模擬店の出店や会場の盛り上げ、誘導や交通整理といった会場スタッフも必要としています。こうした協力は、直接子どもたちに関わることではないかもしれませんが、子どもたちを支える主体となっている「星の家」を応援する大切な活動となっています。

若草アリーナで行われた昨年の「星の家まつり」の様子

「みんなで支える」

子どもたちを地域で支えるとは、どんなことなのでしょうか？

支援を必要としている存在に寄り添う術には、様々な方法があります。もしかすると、何らかの特別な行動を起こす以前に、まつりやチャリティイベントなどに出かけてみるだけでも、「子どもたちを地域で支える」第一歩なのかもしれません。関心を持った市民の方々が自分なりにできることを出しあい、子どもたちと交流を深めていく。支援云々の前に、ふれあうこと自体が、地域で子どもたちを支えることなのかもしれません。

参加したことのない方はぜひ、ある方は今年も、「星の家」を色々な関わり方で応援してみませんか？

認定NPO法人 青少年の自立を支える会
〒320-0037 宇都宮市清住1-3-48
TEL. 028-666-6023　FAX. 028-666-6024
E-mail: sasaeru@snow.ucatv.ne.jp
URL: http://www2.ucatv.ne.jp/~sasaeru.snow/

まつり後の集合写真。今年も暖かいご協力をお願いします

取材後記

イベントに参加することはボランティアに限らず、何かに気づくきっかけになりうると思いました。「星の家」さんでは今年も秋口にまつりを企画中とのことです。まちぴあでも、広報等を通じて陰ながら応援いたします。（小倉）

ちょっと気になるコレクション

MADE IN おばあちゃん

〝幸せを呼ぶ〟と評判のかえるのちょこちゃんを知っていますか？

平成15年に誕生してから現在も、(公社)宇都宮市シルバー人材センター手芸部によって作り続けられている編みぐるみです。

手芸部員には、60～80代のおばあちゃん約20名。喜怒哀楽がうかがえる表情やお洒落な洋服もすべておばあちゃんたちのオリジナル。購入をきっかけに「子宝に恵まれた」「彼氏ができた」「宝くじが当たった」などの幸せな経験をされた方々が全国各地にいるそうです。

おばあちゃんたちは、手放す前に一列に並べて「みんな、元気に行ってくるのよ」と声をかけるのだそうです。作り手の深い愛情が編み込まれたちょこちゃんは、今日も誰かのもとに幸せを運んでいることでしょう。

それぞれが自宅で編んだちょこちゃん。
月に２度センターに持ち寄ってラッピング

かえるのちょこちゃん

DATA：大(約30㎝) ¥1,000
中(約19㎝) ¥600
小(約13㎝) ¥500
問合先：(公社) 宇都宮市シルバー人材センター
TEL. 028-633-5300
FAX. 028-639-0120
URL: http://www.sjc.ne.jp/utsunomiya/

MACHI DUKURI TOPICS

「まちづくりって何？」
そんなアナタにディープな地元ネタから、今が旬のレア情報まで、まちぴあから“まちパワー”を発信します!!

うつのみや発の話題人（ワダイビト）

楽しく「美」と「健康」をGET！

東日本大震災直後に、被災者の方々に元気になってほしいという思いでチャリティイベントを始め、『10年継続』を目標に、春と秋のDance de Fitnessを竹林町のすまいるプラザで開催しています。

さらには、子育て中も充実した時間を楽しみたいというママたちの声を受け、まちぴあでフラダンスやピラティス教室を定期的に行っています。参加者から「親子で思い切り体を動かして日頃のストレスを発散しつつ、素晴らしい仲間もできた」と大好評。

阿部さんは『健康な体づくり』のために食生活を見直し、個々に合った運動で心身を開放することを推奨しています。

「参加者に体調の変化を実感してもらえるとうれしくなります」と語ってくれました。

楽しくいい汗をかいて、
日ごろの運動不足を解消

阿部 直子 さん

Smile fitの代表。フィットネスインストラクター(AFAA JAPANコンサルタント)、パーソナルトレーナー、リフレクソロジストなどの資格を持つ

とっておきの関心空間

暮らしを豊かにする空間　暮ら箱

2014年9月宇都宮市岩本町に「暮ら箱（くらはこ）」が誕生しました。株式会社ドクターリフォーム・サンセイが旧事務所を改装して始めたレンタルスペースで、名前には日々の暮らしを豊かにするための空間という意味が込められています。

山口社長は「用途は限定していません。一人で編み物をなさる方もいらっしゃいますよ。開設のきっかけは地域が元気になればという思いだったので、多くのみなさんに使っていただきこのエリアが活気づけばいいなと願っています。今までになかった新しい空間なので、まずは見に来ていただけるとうれしいです」とお話しくださいました。

1時間500円で豊かな暮らしが実現できる暮ら箱を、ぜひ一度ご利用してみてはいかがでしょうか。

レンタルスペース 暮ら箱

DATA：栃木県宇都宮市岩本町394-5
株式会社ドクターリフォーム・サンセイ敷地内
問合先：TEL 0120-20-6551

気づけば笑顔、あなたの明日を支えたい

「強ばっていたお顔」がお話をしていると次第に明るくなり、とびきりの笑顔に変わる。そんな時、ほんの少しあなたの心に寄り添えたかなと嬉しい気持ちになります。それは、傾聴ボランティアをしていて心が癒され良かったと感じる瞬間であり、「経験豊かな人生の先輩とのお話は、とても勉強になり楽しみでもあります」と代表の中村さんは語ってくれました。

傾聴こだまの会は、養成講座をきっかけに、2011年に受講生のみなさんで設立された団体です。傾聴と聞くと、資格や専門知識が必要なのではと難しく感じる人も少なくはないでしょう。しかし現在は、「何かボランティアをしたい」「お話するのが好き」など、気楽に活動へ参加するメンバーも増えたそうです。

会のモットーは、高齢者と共に人生を振返り、輝いていた頃の自分を再発見するお手伝いをすること。「話しやすい雰囲気や心の交流を通じた信頼関係づくりが大切」と中村さん。

今後は、施設への積極的なアプローチ、イベント等へのブース出展を予定。さらなる認知度アップを目指します。メンバー同士の交流や高齢者の話し相手となるなど、楽しい時間を共有しませんか。

「聴くは宝」、そんな仲間があなたを待っています

【団 体 名】 **傾聴 こだまの会**

【活動場所】 宇都宮市内の高齢者介護施設等を訪問
【活動内容】 月に3回、「1対1」と「グループ」活動で、約1時間程度の傾聴
【会 員 数】 14名

地域の防災力アップを目指して

自宅・職場周辺の地図を使った図上防災訓練

防災士とは、日本防災士機構が認証する民間資格で、自助・共助・協働を原則として、防災の意識・知識・技能をもっていると認められた人。家庭・職場・地域のさまざまな場で、防災リーダーとして、自主防災力を高める活動を行います。

栃木県防災士会は、栃木県で防災・減災活動を通じて社会貢献を行うNPO法人です。県内で活躍する会員は102人。防災訓練、地域や学校への講師派遣、防災知識を学ぶ研修会を開催しています。DIG訓練（地図を使って、避難経路や避難場所、必要な備えを考える模擬訓練）や、HUG訓練（避難者の部屋割りや炊き出し場の確保等、避難所運営を考える模擬訓練）は、実践的で勉強になります。

理事長の稲葉さんからは、「私が防災士としての活動をするきっかけになったのは、平成10年の那須水害での被災。災害に備えるためには、正しい知識を身につけ、とっさの場合に対応できる判断力が必要。そのため、一人でも多くの人に正しい防災知識を伝え、命を守ることにつなげていきたい」

訓練や講師派遣は、公的機関から自主防災組織まで相談に応じています。

液状化現象実験や防災クイズは子どもに人気

【団 体 名】 **特定非営利活動法人 栃木県防災士会**

【所 在 地】 宇都宮市元今泉5-9-7まちぴあオフィス内（11ブース）
【事 務 局】 宇都宮市西2-5-20東亜サーベイ（株）内
【連 絡 先】 TEL. 028-636-0771 FAX. 028-636-8286
【ホームページ】 http://bousaishi-tochigi.org/wp/

陣内先生の まちづくり 言いたい放題 14

コミュニティ・インターン

大学で担当している実習授業の一環で、地域や企業と連携し、それぞれが抱える課題や実施しているプロジェクトに受講生たちを参画させ、その現場から体験的な学びを深めるという試みに取り組んでいます。

例えば、福島県南会津町の集落活性化プロジェクト、福島県いわき市にある応急仮設住宅での交流事業、国内大手製菓会社のCSR（企業の社会的貢献）活動などです。地元宇都宮市での活動を拡げるため、本実習授業では昨年度、宇都宮市H地区において、コミュニティ・インターンというプロジェクトを始めました。企業、自治体などの学生インターンシップは、日常の風景になっていますが、この例はインターン先が地域社会（コミュニティ）であることが大きな特色と言えます。目的は、(1)大学で学ぶまちづくりなどに関する理論の体現化、(2)よそ者、若者である学生の耳目による地域の魅力や課題の掘り起こし、(3)地域の方々と学生が協働することでまちづくりの可能性を拡げるなどです。

昨年度は、地域のお祭りなどへの参加に加え、フィールド調査、アンケート調査などにより地域の魅力と課題を学生諸君が分析しました。また、定期的にミーティングを開催し、地元自治会、地元まちづくり協議会、H地区市民センターの職員、まちづくりセンタースタッフなど多くの関係者から貴重な意見をいただきました。以上の積み上げから学生諸君がH地区のまちづくりプランをとりまとめ、本年三月二十一日、H地区市民センターにてプランを発表しました。本年度は、プランに提示されている学生提案を、地域の方々と協力しながら実現していくことが大きな目標となります。

最終報告会の様子
（2015年3月21日／陣内撮影）

本プロジェクトのスキームは、平成二十五年度から取り組んでいる南会津での集落活性化を参考にしています。このプロジェクトを通して、参加した学生は大きく成長し、また、自信を失っていた集落のみなさんにささやかではありますが明るい展望を示すことができました。政府は地方創生に躍起ですが、それを担うのは大人ばかりではありません。少子化のなか、大学生や高校生など就学中の若者にも地域デビューのきっかけを創っていくことが求められます。

最後になりますが、本プロジェクトの推進に当たり多大なるお力添えをいただきましたH地区自治会、H地区まちづくり協議会、H地区市民センター、まちづくりセンターなどの関係各位に感謝申し上げます。

photo©2003

陣内（じんのうち） 雄次（ゆうじ） プロフィール

2007年、宇都宮大学教育学部教授。NPO法人宇都宮まちづくり市民工房の理事長としてまちづくりの実践にも関わるとともに、コミュニティカフェ「ソノツギ」を運営している。著書に「コミュニティ・カフェと市民育ち」など。

このコーナーでは市民のみなさん、市民活動関係者、行政関係者などからのご意見、ご感想をお待ちしています。紙面上での意見交換へと発展することを期待します。ご意見・ご感想はまちぴあ広報部へ。

書籍紹介

陣内先生が推奨するこの一冊！

掘米 幹夫 著

「やればわかる地域活動の魅力
—「山形方式」で広がる高校生ボランティアとは？—」

本の時遊社　2000年10月発行

まちぴあ書庫からPICK UP!

ボランティアを始めるための参考書。つながりを生む「市民社会」創造への道標!!

本書は、「ボランティアコーディネーション力検定」の公式テキストです。この検定が必要とされるようになったきっかけは阪神・淡路大震災。たくさんのボランティア希望者が現地に駆け付けましたが、現地とのニーズとうまくかみ合わないことで、かえって混乱を招く場面が見られました。いまもボランティアの専門知識や経験を持つコーディネーターの役割が注目されるのも、そんな背景があるからです。

公式テキストなんて言うと、何だかとっても難しく聞こえるかもですが、市民活動センターやボランティアセンターなど専門スタッフに限らず、ちょっとボランティアに興味があるという人が「読み物」として読んでも十分楽しく、さまざまな示唆を与えてくれる一冊です。

地域課題や社会問題に対応するため、多様な市民活動やボランティアが行われている現在、「市民社会」の創造に向けて、組織、団体、人々をつなぐコーディネーターを、あなたも目指してみませんか。

『市民社会の創造とボランティアコーディネーション』

日本ボランティアコーディネーター協会 編
早瀬昇・筒井のり子 著
筒井書房　2009年発行

まちぴあからのお知らせ

助成金情報

宇都宮発の市民活動を応援しています
市民活動助成金 交付団体の活動紹介

市では、市民や企業の皆さんからの寄付金の他に、寄付金と同額を市からも支出して積み立てる「市民活動助成基金」を設置し、さまざまな分野で活躍する市民活動団体に助成金を交付しています。今年度の助成先が決定しましたので、今後の活動にご注目ください。

お問い合せ　みんなでまちづくり課　TEL.028-632-2288

スタート支援　立ち上げて間もない団体などに、事業の開始など団体の自立化を支援するコース

団体名	活動内容
Tochigi 未来カフェ	介護士など福祉関係者が中心となって組織した団体。福祉に関した語り合いや講演会を実施
遊月流酬月会　伝承の会	日本文化の一つである吟詩舞を子どもたちが習得し、次世代につなげる活動

ステップアップ支援　結成後２年以上経過した団体に、事業の拡大など活動の活発化を支援するコース

団体名	活動内容
特定非営利活動法人 古賀志山を守ろう会	古賀志山の山名板・コース案内標識の設置など
特定非営利活動法人 宇都宮ピアノ研究会	演奏会の開催や高齢者施設などへの慰問
栃木県BBS連盟	非行を行った子どもたちの更生、支援側の施設関係者によるシンポジウムの開催など
まちなかメディカルカフェ in 宇都宮	医師をはじめとしたメンバーが、がん患者の方が悩みを打ち明ける語り合いの場を開催
東下ヶ橋の天祭を復元開催する会	東下ヶ橋天棚を舞台とする天祭の復元開催
ボランティア　楽笑会	歌の披露や手品などの高齢者施設への慰問活動

連携支援　団体が、２つ以上の団体又は事業者等と連携して実施する新規事業及び既存事業の拡大に要する費用を助成し、市民協働を支援するコース

団体名	活動内容
宮のにぎわい山車復活プロジェクト	火炎太鼓の山車の復元と復活巡行

まちぴあ最新情報にアクセス！　http://www.u-machipia.org　まちぴあ　検索

市民活動助成基金
ご協力ありがとうございます

- 清水造園
- 宇都宮屋台横丁
- 池澤設計
- 沼子典司　（敬称略）

市民活動助成基金とは

宇都宮市では、ボランティア活動やNPO活動を活発にし、全市的に広げていくため、これらの活動を市民、企業、行政のみんなで支える仕組みとして「市民活動助成基金」を設置しています。

この基金は、市民の皆さんによる「市民活動を応援する気持ち」である寄附金を積み立てるとともに、宇都宮市が寄附金と同額を支出して、積み立てています。

ボランティア団体やNPO法人の活躍により、宇都宮を活気ある、すてきな街とするため、市民の皆さんのご協力をお願いいたします。

宇都宮市役所
みんなでまちづくり課　市民活動グループ
TEL.028-632-2288
URL: http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/
※トップページ▶（分野別で探す）市民協働・コミュニティ▶ボランティア・NPO

メルマガ購読者募集中!!
鳥の目&虫の目＋まちぴあ通信

登録はE-mail／窓口にて！
info@u-machipia.org

まちぴあ新規登録団体　（2015年4月30日現在　登録団体数208団体）

株式会社サニクリーン宇都宮
お掃除に関する知識や技術の提供を通じて、地域社会とのコミュニケーションの円滑化をめざし、社会の一員として積極的にCSR活動に取り組む

とちぎヒーロー愛好会
キャラクターの魅力を活かした地域の活性化に貢献し、未来ある子ども達に向け、社会教育の入り口を担う。また、近県地域との人の交流を促進する

らくらくピアノサークル「さくらそう」
初心者でも弾けるように開発されたオリジナル楽譜を用いて、ピアノをはじめ歌や合奏などを楽しみ、仲間と集いながら健康的な生活を目指す

KENC
会員相互に協力し、歌唱を通しての健康増進や相互コミュニケーション能力を高め、歌唱ボランティアを通して魅力ある住みよいまちづくりに貢献する

親子英語サークル「ダックリンクラブ」
0歳～3歳親子を主な対象にした英語サークル活動を通して、親子のコミュニケーションを密にし、孤独になりがちな子育て世代が友達を作る場を提供する

ホ・アロハ・レア
フラダンスの実演など活動を通じて、宇都宮市の高齢者福祉及び健康づくりに寄与する

親子deリトミック「ベビーノオト」
音楽に合わせて、親子のコミュニケーションやスキンシップをとることで、親子間や他者との信頼関係を深め、会員相互の親睦を図る

すみれ子供会育成会
県営平松本町住宅周辺の子供会と連携して、子どもの育成指導に寄与するとともに、会員相互の親睦を図る事業を行う

ことのは教室
家庭や学校での教育だけでは不十分な子どもたちの健全な育成のために、表現に特化した教育の場を提供することで、子どもたちの「伝える力」を育む

自分力アップ「和み」
仲間作りを主体にした寸劇を通して「自分力」を育む啓蒙活動を通して、宇都宮市を中心とした地域の男女共同参画の推進に寄与する

宇都宮市まちづくりセンター まちぴあ

（指定管理者：認定NPO法人　宇都宮まちづくり市民工房）

〒321-0954 栃木県宇都宮市元今泉５丁目9-7
TEL.028-661-2778／028-661-2779
FAX.028-689-2731
E-mail: info@u-machipia.org　URL: http://www.u-machipia.org

開館時間　午前９時から午後９時30分まで
休 館 日　年末年始（12月29日～翌年１月３日）
　　臨時休館（施設点検等）
JR宇都宮駅東口から徒歩15分　駐車場28台

まちぴあ情報紙の音訳版ができました。ご希望の方はまちぴあまでご連絡ください。

2015年7月1日発行　編集・発行　認定NPO法人　宇都宮まちづくり市民工房
宇都宮市のまちづくり情報紙「まちぴあ」